

**農場の防疫対策
踏込消毒槽における薬液(アンテックビルコン®S)の効力と対策**

家畜防疫対策において、病原体を「持ち込まない」、「拡げない」、「持ち出さない」ことが重要です。踏込消毒槽は人の移動による病原体の拡散を制御するうえで有効です。しかし、誤った使用方法では消毒効果が著しく低下することがあります。

アンテックビルコン®S（以下、ビルコンS）は対象病原体が幅広く、踏込消毒で多く利用されています（図1、表1）。今回はビルコンSを効果的に使用するための注意点を紹介します。



**【踏込消毒槽
使用方法及び用量】**

100倍希釈液を使用し、薬液の更新は1週毎又はひどく汚れた時とする。

図1 アンテックビルコン®S
引用：製品説明書

表1 アンテックビルコン®Sの対象病原体一覧

ウイルス	口タ	細菌	結核病
	RS		ヨーネ病
	IBR		気腫疽菌
	BVD-MD		サルモネラ菌
	白血病		大腸菌
			ブドウ球菌

参考：十勝は育育成牛受託協議会
「酪農場における消毒のポイント」

1 石灰の混入に注意

ビルコンSは塩素の酸化力によって、細菌を死滅させます。よって、アルカリ性の石灰が消毒槽に混入すると、酸化力が低下し、殺菌効果が十分発揮されません。

防疫対策にビルコンSと石灰資材を併用する際は、石灰を踏んだ後に踏込消毒槽を通らないよう、作業動線を確認してから設置しましょう。

2 長靴裏に残ったフンに注意

使用上の注意に「長靴をよく洗浄し、有機物（フン等）を落としてから踏込消毒槽内に入る。」と記載さ

れています。しかし、フン等を洗い流す際、長靴裏の溝の汚れを見落とすことがあります。
細菌の大きさは約0.001ミリの、長靴の溝は5ミリの程度です。長靴の溝に残ったわずかなフンは細菌の5000倍近く分厚いバリアになります。このバリアによって細菌が生き残る可能性は高いと思われます（図2）。また、薬液への有機物の混入も殺菌力の低下を招きます。



図2 細菌とフンの比較イメージ



3 適切な濃度で使用

ビルコンSの踏込消毒槽における適切な希釈倍率は100倍です（水10リットルに対して剤100g）。塩素は濃度と殺菌力が比例するため、適正

な希釈倍率より薄いと殺菌力が弱くなります。

希釈倍率100倍と200倍では消毒液の見た目の違いはわずかです（図3）。目分量で希釈することによって、殺菌効果が半減している可能性があるため、付属品の計量カップを使用し、適切に希釈しましょう。

また、雨や使用状況により薬液は日々薄まっています。汚れ具合を確認し適宜交換するとともに、週1回を目処に定期的に交換することをおすすめします。



図3 希釈倍率と見た目の比較

4 やりかた

防疫対策は病原体を防除する以外に、牛の体力・免疫力を高めることも重要です。

牛の安楽性やルーメン環境に配慮した管理も検討しましょう。